

実践事例 1

「はげしい動きの世界（表現運動）」の実践を通して

三朝町立西小学校 石丸 浩行

1. はじめに

表現運動は、自分ではない何かに変身して踊ったり、感じたことや思いなど、心の動きを全身で表現したりすることが楽しい運動である。

本学級の児童は、体育が好きである。しかし、表現運動の学習経験が少なく、事前のアンケートから、即興的に体を動かすことが難しいと予想できた。「はずかしい」「どうやったらいいかわからない」などという意見も多かった。普段の生活の中では、明るく、個性豊かで、素直に自分を出せる児童も多いので、何か工夫をすれば楽しく活動できるのではないかと感じていた。

そこで、単元前半では楽しい雰囲気を作り、全身を使った動きや心を解放できるような場面の設定を行った。学習の見通しが持てるように、単元の流れや授業の流れの確認をしたり、毎時間のねらいをしっかりと伝えたりするようにした。また、ペアやグループなど、友だちとのかかわりや学び合いの場を増やすことにより、様々な考えや動きが引き出せるようにした。さらに技能の習得・活用を図り、単元後半での発表に活かせるように単元の流れを考えた。

2. 指導の実際（全6時間）

（1）単元のねらい

以下のように単元のねらいを設定した。単元前半では、「対決」をキーワードに様々な動きを習得・活用し、単元後半では、副読本を活用してグループごとに題材を決め、ひとまとまりの動きにして踊り、運動の特性に触れるようにしたいと考えた。

○はげしい感じのイメージを広げながら進んで踊り、お互いの動きのよさを認め合い、助け合っ練習や発表をしたり、場の安全に気を配りながら踊ったりすることができる。（態度）

○題材から表したいイメージを捉え、動きを連動させたり、メリハリをつけたりしながら、ひとながれの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにしたりして表現することができる。（技能）

○課題解決の仕方を知って自分やグループの課題に応じた動きを工夫して踊り、自分やグループのよさを生かす動きを見つけ合っ踊ることができる。（思考・判断）

（2）指導にあたって

指導にあたっては、児童の実態に合った単元導入の工夫、友だち同士のかかわり合いを意図的に設定したコミュニケーションの充実、技能を伸ばすための習得・活用から探求への学習過程の3つを意識して学習を進めた。

① 単元導入の工夫

児童の表現運動に対する不安を解決するために、単元前半は楽しい雰囲気を作り出すことを特に意識し、「まねっこ遊び」や「新聞紙になろう」、「クラブダンス」などを取り入れた。オリエンテーションでは、単元の流れや1時間の流れ、つけたい力を確認した。1時間ごとのめあても、子どもたちにはっきりと分かるように伝えた。また、映像による表現運動のイメージ作りをしたり、4つのくずし（空間、体、リズム、人間関係）について話したりした。これにより、学習に向けて安心した表情を浮かべる児童が多かった。



② コミュニケーションの充実

様々な動きや考えを作り出すために、友だちとのかかわりはとても大切であると考え、交流の時間を多く設定した。ペアやグループ同士で互いに見合い、それぞれのよさを生かして踊れるようにした。話し合いのよりどころとして、副読本「わたしたちの体育」を用いた。本を見ながら、話し合いを進めたことにより、言語活動が活発になり、様々な動きを知ったり、共有したりすることができ、多様な動きができるようになった。



③ 「技能を伸ばすための習得・活用から探求への学習過程」

単元前半では、2人での「対決」「追いつ追われつ」などの場面を取り上げ、4つのくずしを意識させながら、習得・活用の活動を繰り返した。先生や友だちと一っしょに踊ったり、互いに見合ったりすることを通して、様々な動きを習得できるようにした。その動きを活用しながら、ひとながれの動きで即興的に楽しく踊れるようになってきた。その中で、体の高低、左右の動き、対極の動き、友だちとのからまりなどの具体的な動き（4つのくずし）を必要に応じて教師がアドバイスするようにした。



後半はグループで、ひとまとまりの動きにして表現できるようにした。グループごとに題材を決めるとき、わたしたちの体育の例示を活用した。例示の動きをみんなで踊り、ひとまとまりの動きの構成の仕方を学んだ。それを発展させ、自分たちの表したいイメージを決定し、作品作りに向かった。「なか」のはげしい動きを強調するようにアドバイスした。最後は、発表会を行い、それぞれのグループのはげしい動きのよさを見つけて伝え合った。

3 成果と課題

【成果】

- ・事後アンケートの結果、ほとんどの児童が楽しかったと答えていた。実際に、児童は意欲的に学習に取り組んだ。事前アンケートから、この姿は予想できなかった。表現運動のすばらしさを自分自身が学ぶことができた。
- ・不安だと答えていた児童が多かったが、単元導入の工夫やめあてを明確にして活動を進めたことがよかった。
- ・単元後半の発表では、多種多様な動きが見られた。どんなことを身につけなくてはならないかをひとつひとつ丁寧に指導し、友だちとのかかわりの中で動きを広げたことが効果的であった。
- ・友だちとたくさん話し合いができていた。また、副読本や掲示物などを見て、話し合いをする場面が多く見られた。視覚的に振り返ることのできる場の重要性を感じた。
- ・話し合いを進める中で様々なアイデアがうまれていた。発表場面では、習得・活用の学習過程で身につけた動きをどんどん変化させ、表したい感じやイメージを自由に表現していた。

【課題】

- ・事後アンケートで一番多かった課題は、多人数になるとまとまらないということだった。表したい動きをたくさん入れようとして、話し合いに時間がかかってしまう場面もあった。題材や児童の実態に応じて、グループ編成を考える必要があることを学んだ。
- ・作品の流れや表したい動きの細かい部分にこだわってしまい、中心となるはげしい動きということの意識が薄れてしまった場面があった。またつながりがうまくいかなかったこともあった。
- ・ひとまとまりの動きを表現する活動時間が少し足りなかった。
- ・ペアグループで見合うことは成果があったが、ビデオなどを活用して、自分たちの動きを振り返るようにすれば、友だちからのアドバイスをもっと効果的に生かすことができたのではないかと反省した。

【児童の感想より】

- ・表現するのはいいなと思います。友だちと協力してできました。体育は楽しんでするものだと思っていました。表現では勝手に笑顔がでました。
- ・自分がわかっても他の人がわからなくて、それでわかるようにするにはと考えていくことが難しかったです。人がわかるかなと思うと気持ちがわくわくして、そこが何かおもしろかったです。
- ・みんなで提案して協力し合って表現するのが楽しかったです。
- ・表現がこんなにおもしろいということがわかりました。激しく動くところがおもしろかったです。
- ・あまり楽しくないと思っていたけど、おもしろい！いろんなことが空間だからできる。自分たちで考えてまとめるので、楽しい！みんながなりきっている！
- ・はじめてして楽しかったです。表情も必要だと気付きました。
- ・人数が少ないときはいろいろと考えてすぐ決まったが、他人数で行うときはなかなかうまくできなかったり、アイデアが決まらなかったりして難しかったです。

体育の副読本から
「せんたく」の表現



即興的にグループ
で考えた「夏休み」
の演技

川の流るの様子を
表現した場面。4人組で
即興的に考えた。



即興的に考えた「朝食」の様子。
ガスをつけたり、卵を焼いたり
する表現を入れていた。

